

奥州遺産

No. 50

ときを越え
受け継がれるもの

焼石連峰ビーチライン

Ⅱ 胆沢区若柳 Ⅱ

大船渡市から秋田県横手市まで伸びる国道397号。胆沢区若柳のつづ沼付近から秋田との県境、大森山トンネルまでの約17^きが「焼石連峰ビーチライン」という愛称で親しまれている。

国道ができる以前、秋田へ行くには仙北街道を利用。三陸沿岸から秋田までの交易の要衝として、武士や商人、旅芸人などが行き交いにぎわっていたという。当時、馬留[※]から奥は「山入り」と呼ばれ、難所の連続だった。馬での通行は不可能で、「背負子」と呼ばれる賃夫が、山を越え荷物を運んでいた。

ビーチラインは、胆沢川の上流に沿って走る。深い溪谷は、生い茂るブナ原生林でなかなか見えないが、秋が深まるにつれ鮮やかに色付く紅葉に、誰しもが目を奪われる。

惜しまれつつ、11月10日に冬季閉鎖となったビーチライン。雪深い冬を越え、木々の芽吹く春を待ちわびる。

※現在の奥州湖交流館（旧・胆沢ダム学習館）付近



1



2



1 ビーチラインは“ブナ”の英訳が^{ビーチ}beechということから付けられた愛称。県境の大森山トンネル付近では、秋深まる紅葉の季節、木々は鮮やかに色付く（10月15日撮影）

2 道中には、モクラ溪谷や大岩溪谷などがあり、その景観も絶景。溪谷が見えるところには看板が設置されている

告 告